

## 北アナトリア、ウルガズにおける過去 2000 年間の気候変動 Last 2 ka climate change at Ilgaz site North Anatolian fault systems

須貝 俊彦<sup>1\*</sup>

Toshihiko Sugai<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 東京大学大学院新領域創成科学研究科

<sup>1</sup> Graduate School of Frontier Sciences, Univ. of Tokyo

北アナトリア断層中央部, 1943年ウルガズ地震断層トレンチ (Sugai et al., 2000) で得た過去 2000 年間の連続試料の花  
粉分析と年代測定を行い, この間の古気候変動の復元を試みた。注目すべき点は、中世温暖期に逆グレーディングした  
淘汰の良い細礫層の薄層と有機質土壌の薄層の互層が顕著に堆積し、マツの球果を多量に含むこと、17世紀から19世紀  
の小氷期に、ごく細粒の角張った碎屑物を含む泥炭層が発達することである。

キーワード: 古気候, 中世温暖期, 小氷期, 花粉分析, 北アナトリア, 放射性炭素年代測定

Keywords: paleoclimate, Medieval Warm Period, Little Ice Age, pollen analysis, North Anatolia, AMS radiocarbon dating